



特集 明日から使える認知症患者の尿失禁ケア

訪問看護における認知症尿失禁ケアのポイント

山口昌子¹⁾, 尾ノ井美由紀²⁾

1) 宝塚大学 看護学部 看護学科 在宅看護 (非常勤) /NPO 快適な排尿をめざす全国ネットの会 理事
2) 宝塚大学 看護学部 看護学科 地域看護 教授

- Point**
- ▶ 訪問看護の役割や特徴を理解できる
 - ▶ 在宅での認知症失禁患者の継続看護について必要性を理解できる
 - ▶ 対象者のケアニーズに応じた在宅看護の提供が理解できる

はじめに

住み慣れた自宅で病気や障害があっても自分らしい生活を送るために、在宅療養のニーズは高まっています¹⁾。

訪問看護は、在宅療養生活を送っている人に看護を行うサービスで、本人や家族の思いに沿った在宅療養生活に向けて専門性を発揮し、多職種で連携し生活の質が向上できるよう、予防から見取りまでを支えています。訪問看護を必要とする人は年々増加しており、そのニーズは多様化しています (図1)。

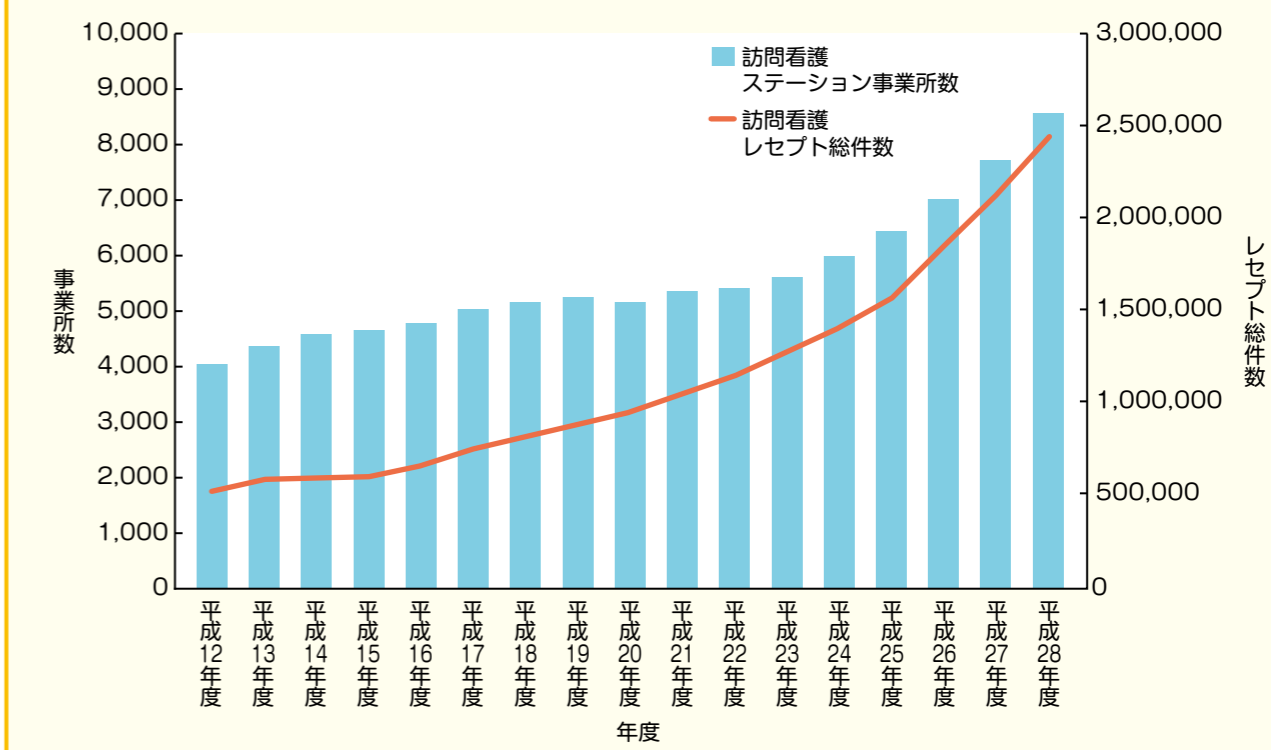
訪問看護の対象は乳児から高齢者まで幅広く、

表1 訪問看護サービスの内容 (訪問看護ステーション利用者構成割合)

①病状観察
②日常生活の介助
③体位変換
④リハビリテーション
⑤創傷・褥瘡の処置
⑥カテーテル管理
⑦ターミナルケア
⑧対象者および家族の療養上の相談・指導

また疾患も多岐にわたります。業務内容 (表1) は、病状の観察はもとより日常生活の介助から、

A 訪問看護ステーション事業所数 (レセプト総件数) 推移



B 認知症の状況別要介護 (要支援) 度の構成割合 (利用者票)

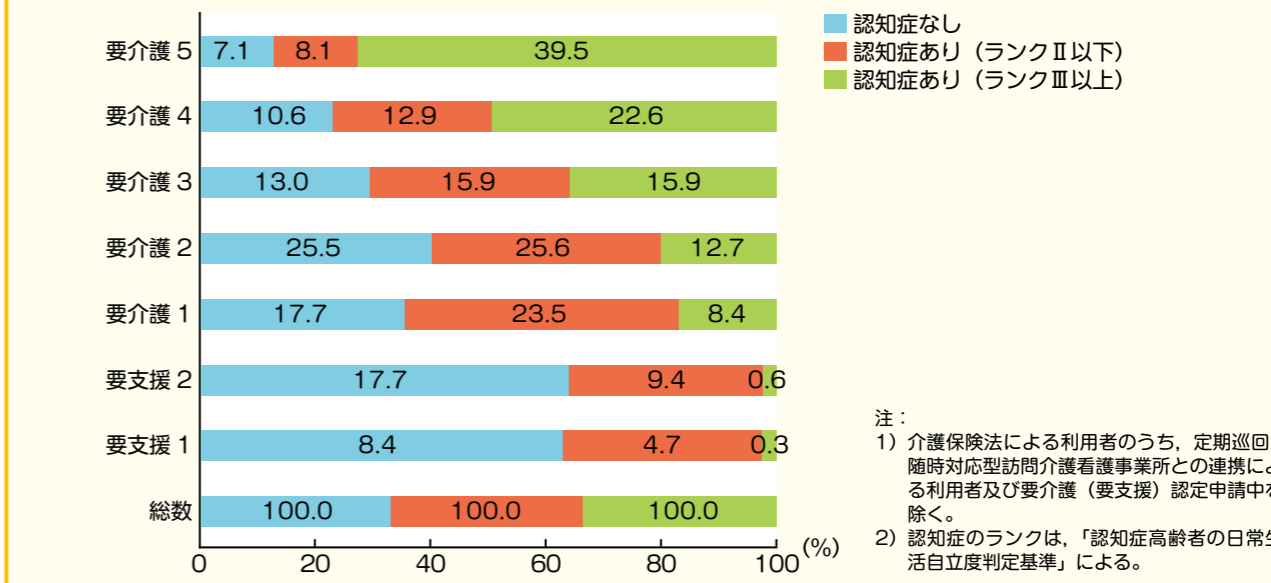


図1 訪問看護のニーズ

A: (出典) 厚生労働省平成12~17年度「医療費の動向調査」(年度版) 最近の医療費の動向 [概算医療費データベース] 制度別医療機関種別 医療費 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/iryuhoken/iryuhoken03/03.html> (2018年12月閲覧)

体位変換やリハビリテーションなどの看護ケア提供と多岐にわたります。訪問看護師は主治医と連

携し、心身の状態に応じて看護を行います。身体的・精神的な看護はもとより、入退院 (入所・退所)